石巻専修大学特集

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号
0225
(22)7711

社会を支える人材を育成

広大で自然豊かなキャンパスで展開されるきめ細かな少人数教育。創立26年を迎える石巻専修大学が目指す大学像、学生像を坂田隆学長にお聞きした。また3学部の学部長に各学部の魅力を伺った。

坂田 隆 学長

学生たちの成長を実感

対外的に活躍するゼミや研究室が目立っています。新たなブランドを石巻に誕生させた石原慎士ゼミ（経営学部）、学外の全国大会イベントで見事な発表をやり遂げた山崎泰央ゼミ（同）。理工学部でも人間学部でも現場へ出て実践力を磨き、成果を上げている研究室やゼミが多々あります。

いずれも教員が工夫を重ね全力で研究に取り組む姿を学生たちがしっかり受け取り、開花させたものです。地域貢献の志を原動力に、自ら考え、判断し、行動する社会性が育まれているのもうれしい限りです。

石巻専修大学の目標は、目立たないところでも社会をしっかり支える人材の育成です。スタープレーヤーを育てることではありません。スターは一人で十分ですが、屋台骨を支える人間がたくさんいなければ社会は成り立ちません。

「学生たちがきちんとあいさつをしますね」――企業など外部の方から学生の礼儀の良さにお褒めの言葉をいただきます。うれしいことです。

勉学面でも、素直に吸収し、真正面から取り組む学生が育っています。教員が「君たち」ではなく個人の名前を呼び、一人の人格として学生に接し、対話を重視する少人数教育の良さがあらゆる場面に表れているのでしょう。きめの細かい教育と就職指導を行うことによる学生の成長を実感しております。

ユニバーシティハウス 新たな〝顔〟に

キャンパスでは、学生寮「石巻専修大学ユニバーシティハウス」の建設が進められています。

構内の学生寮は以前から求められていましたが、震災後の交通事情や居住状況からみても待望していたものです。誕生すれば、初めて石巻に滞在する女子学生や留学生、長時間の実験を必要とする大学院生も安心して学習や研究に取り組めるとともに、遠方から通う学生はサークルなどの課外活動に存分に打ち込めます。

また、年齢や学部を超えた寮での社会生活を体験することで、学生時代の得難い思い出となるでしょう。本学の新たな〝顔〟にしたいと思います。

震災復興を機に――文・理の枠超えた新しい学問創出へ

昨年から始まった「復興ボランティア学」が好評です。NPOやボランティアの団体リーダーが、現場の真の姿、復興の様子を報告する、メディアや報道では聞けないものです。困難から立ち上がるとき、なにが重要か。現場で必要とされるものはなにか。人集め、組織づくりは。被災地の大学のあり方は――。

この成果から、世界的に見ても新たな学問が生まれると、直感しました。理系、文系の枠を超え、多くの領域の研究者が取り組めることもポイントです。

震災は極めて辛いものでした。しかし、前例のない体験をした私たちは、次世代に向かって「なにをすべきか」を伝えていく責務があります。大それた挑戦かもしれませんが、数年先を見つめて取り組んでいきます。（専門は比較栄養生理学）

吉原章 理工学部長

〝二つの心〟を学ぶ

川・海・山の豊かな自然環境に恵まれた本学の理工学部は、生命の起源から最先端の工学技術までを網羅する4学科（食環境学科、生物科学科、機械工学科、情報電子工学科）で構成されています。理学と工学は車の両輪である――との理念に基づき、「自然」と「ものづくり」の二つの心を学ぶことが特徴です。

▽食と環境を理学と工学の観点から学ぶ「食環境学科」▽動物、植物、海の生物から細胞、ミクロの分子にいたるまで、多様性に富む生物の謎や営みに迫る「生物科学科」▽ものづくりを極め、先端工学技術を支える技術者の育成を目指す「機械工学科」▽高度情報化社会の基盤技術について学び、ハード、ソフト両面の知識を習得する「情報電子工学科」

これら4学科は、豊かな教養と専門性を育み、それぞれ独立しながらも有機的に結びついており、学生一人一人の学びの成果が広がっていくことが強みです。

各学科とも実践的な教育を重視し、実習や演習をカリキュラムに組み込み、多彩なフィールドワークを行っています。また、学生との対話を重視し、教員1人に対して学生4人という少人数教育を実践しています。

教員はみな教育熱心、そして「ぴりりと辛い」粒ぞろいです。地球環境や現代文明を支えるスケールの大きい研究から、社会との共生のあり方を追究する研究まで幅広く展開しています。

東日本大震災の被災地域の環境調査などに参加する学生がいますし、震災時の体験をもとに減災グッズを開発した教員もいます。駿河湾で漁師とともにサクラエビの鮮度確保に取り組む教員の姿はメディアで話題になりました。

人々の幸福や社会の発展に貢献できる人材に育ってほしい――私たちは願い、応援します。

（専門は物性物理学）

佐々木万亀夫 経営学部長

実践力つけるゼミ

経営学部では企業や組織の活動から「幸せや生きがいを生む経営とはなにか」を学びます。マネジメント能力に優れ、社会的課題の解決に貢献できる人材を目指します。

学ぶ分野はそれぞれの興味や希望する進路に沿って5コースから選択できます。▽多面的な運営管理能力を身につける「マネジメントコース」▽経理・財務の実務を磨く「ビジネス会計コース」▽ITスキルを深める「情報ビジネスコース」▽観光業全般に関わる専門知識を習得する「まちづくり観光コース」▽マーケティングを学び商品開発力を養う「ビジネス開発コース」で、いずれも資格取得に結びつきます。

「面白いことをやっている大学」と認知されてきたのでしょうか。「サバだしラーメンに興味がある」と面接で話す受験生が増えています。石原慎士教授（地域経営論）が市内に伝わるサバのだしに注目し、地元のラーメン店やゼミ生と開発したラーメンをはじめ、石巻名物の焼きそばにサバだしを使い、震災被災地の名物をコラボしたそばめしは、東京の百貨店でも紹介されました。

仮設住宅で暮らす被災者の支援に取り組む山崎泰央教授（企業家史）のゼミ生は、その体験を「社会人基礎力育成グランプリ2014」北海道・東北地区大会で発表し優勝、全国大会にも出場しました。ワンセグのエリア放送で番組を制作したり、石巻のツアーや土産品を企画するゼミもあります。

学生の履修状況や友人関係、健康状態を教員が聞き取って記録する「学生カルテ」を昨年度から始めました。教員が学生と密に接する機会を持ち、学生の不安にきめ細かく対応するためです。石巻専大に入学してよかったと実感してもらえるようにわれわれ教員も頑張ります。

（専門は情報処理）

山崎省一 人間学部長

共生社会を支える

人間学部（人間文化学科と人間教育学科）は人間支援、地域支援の観点から共生社会を支え、その発展、向上に貢献できる人材を育成する学部です。人間文化学科は「まちづくり」、人間教育学科は「ひとづくり」のための人材を育てます。

学生たちは小・中・高の教員、保育園・幼稚園の先生、学芸員、公務員などを目指します。両学科それぞれの履修モデルを用意、将来、学生がやりたいこと、進みたい分野に最も近いモデルを選択するシステムをつくっています。

人間とは何か、人間が作り出す文化とは何か。その意味や本質を理解することが重要です。人間を理解するための一助として、心理学関連の26科目を用意しています。

実践的な教育にも力を入れています。5月、人間教育学科の2年次生が参加して、石巻市立石巻小で授業見学会を2回開催しました。学生たちは子どもとの接し方や授業の進め方を学び、先生になる自覚を芽生えさせたことでしょう。今後、保育園、幼稚園、特別支援学校にも広げていきます。人間文化学科では、NPO活動やボランティア活動を体験します。石巻の夏の風物詩「川開き祭り」の実行委員会のスタッフとして各種行事にも率先して参加することを期待します。

このように、現場に出て実習を行い、具体的ノウハウの取得によって問題意識を持ち、人間と文化が地域にできることを考えてほしい、地域社会を変えようとする気概を持ってほしいと思います。

忘れてはならないこと、それは石巻で学ぶことは、2011年の震災を乗り越え、まちが復興に向かって進んでいる姿をハダで感じることができるということです。本学部が生まれ2年目。元気がよく、モチベーションの高い学生が揃っています。大いに期待しています。

（専門はスポーツ生理学）